明けましておめでとうございます。新年を迎えると、誰もが気持ちを新たにし、新年の誓いをたてるのではないでしょうか？そこで、当センターも3つの誓いを掲げました。
①医療安全の強化、②スタッフ教育の強化、③接遇の強化という3つの強化です。

医療安全の強化

医療安全については、国による医療事故調査制度が始まり、マスコミにも盛んに取り上げられていますが、皆様の関心も高まっていることと思います。「安全」は医療において何よりも重要であり、内視鏡検査・治療には、細心の注意を払っても少なからず偶発症（突然起こる症状）が起こることがあります。当センターでは、病院の目標である「地域No.1の救急・急性期病院になる」を実現するために、24時間365日の緊急内視鏡・高度内視鏡治療を追及しています。それがしめし、「安全」の確保を怠らないような体制を強化していきたいと思います。

スタッフ教育の強化

また、安全を確保するためには、スタッフ「教育」の充実が重要です。現在11名の常勤内視鏡医がいますが、新年度からさらに指導医1名が若任し、4月からは新たに2名の若手消化器内科医が増員およびです。内視鏡検査の技術をしっかり担保する教育のさらなる充実を見込んでいます。そして、安全確保のためには、内視鏡医だけではなく、内視鏡検査の介護や患者看護を担う看護師の教育も重要です。センターでは定期的に勉強会を開催し、スタッフの知識・技術の向上に努めています。

接遇（おもてなし）の強化

年末には、スタッフ全員で「接遇」の勉強会を開催しました。検査のストレスや不快に対する不安を、少しでも和らげることができるよう、医療人としての「接遇」についても、今まで以上に意識を高めていきたいと思います。

新しい年がさらに良い年になるよう祈念して、新年の挨拶をさせていただきます。
逆流性食道炎の症状とは

典型的な症状として「胸焼け」や「舌酸（胃酸が口の中まで逆流する）」が挙げられます。感じ方はそれぞれで、「胸がムカムカする」「びしこちの辺りが熱い」「胸がどーんと重い」「口に酸っぱいものが広がる」「食べ物がしみる」といったように多彩です。胸の症状が出やすいため、最初は循環器内科や呼吸器内科を受診される方が多くみられます。

どうしてなるのでしょうか

胃酸の逆流は何故原因で起こるのでしょうか。

本来、食道と胃の境目には括約筋という筋肉がいており、胃の内容が食道へ逆流しないように防いでいます。食道裂孔ヘルニアや薬剤などが原因で境目が緩み、胃酸の逆流を繰り返すことで、食道に炎症が生じて起こります。また、過食や肥満などで腹圧が上がると胃酸が食道へ押し上げられやすくなります。

内視鏡検査でわかります

内視鏡検査では、食道粘膜の炎症や粘膜の障害を、肉眼で確認することができる。また、食道裂孔ヘルニアなどの存在も確認できます。

治療法と日常生活の注意点

逆流性食道炎の治療の主流は、薬物療法と食生活など生活習慣の改善です。薬物療法としては、胃酸を抑える「酸分泌抑制剤」が広く使われています。食生活や日常生活において気を付けることで、良くなることもあります。十分な内科治療が行われた後も症状が改善しない場合には手術も検討されますが、手術は皮にかかる負担が大変大きいため、十分な検討が必要です。まずは日常生活の見直しから始めましょう！
リカバリー室ってどんな場所？
「回復室」という意味を持ちます。内視鏡検査終了後、安全に帰宅していただくことができるよう休む部屋です。当センターのリカバリー室にはベッドが8床あり、プライバシー保護のためカーテンで仕切っています。

手荷物はどうするの？
ロッカーを用意していますのでご利用ください。

休んでいる間にトイレに行きたくなったら？
ベッドにナースコールを設置していますので、看護師をお呼びください。突然のふらつきや転倒の危険性があるため、看護師が付き添わせていただきます。

目が覚めたら帰ってもいいの？
薬剤の作用時間を考慮して、鎮痛剤は検査終了後30分以上、鎮静剤は1時間休んでいただきます。そのため、途中で目が覚めても起き上がらずに、横になっていてください。時間がきたら看護師が起こしだいります。

リカバリー室で家族が付き添ってもいいの？
付き添いは可能です。ただ、他の患者様もいらっしゃるので、周囲への配慮にご協力ください。(お子様やご高齢の方などは付き添いをお願いすることがあります)

検査の説明はいつ受けるの？
原則、当日に医師から説明があります。付き添いの方がいる場合、代わりに説明を聞いていただくこともできます。ご本人が聞く場合は、起きてから説明します。

●検査終了後から帰宅までの流れ●
内視鏡検査（鎮静剤、鎮痛剤使用）終了
薬剤の副作用の影響を観察するために、指先にモニターを装着。車椅子かストレッチャーで、検査室からリカバリー室へ移動します。

リカバリー室にて安静
処置が必要な時に注射チューブなどをつけたまま休みます。安全確認のために設置したカメラで看護師が患者様を確認。時間がくると看護師が患者様のもとへ伺い、ふらつきや眠気、気分の悪さがないか確認します（必要に応じて追加で休みます）。

起きて状態確認
安全に帰れる状態となったら血圧を測定。問題なければチューブを抜きます。

帰宅へ
新任スタッフの紹介

Masakazu Kikuchi
菊池 正和
①患者さまと接する時に気をつけていること
→患者様に対する礼儀を忘れないことです。
②普段、健康のために気をつけていること
→三飮少かさないようにしています。
③座右の銘、モットー
→光陰短くことし。
④趣味、休みの過ごし方
→主に子どもと遊んでいます。
⑤「一期一会」を手に取られた方へのメッセージ
→忘れないことが多くご面倒をお掛けするかもしれませんが、精一杯頑張ります。

GLOBAL TOPICS
タイでの医療支援活動

毎年、タイの内視鏡技術の向上に尽力しています

当院は従来より、近隣の医療機関と協働して、海外での医療支援活動
に取り組んでいます。

去る2016年10月、当センターの野々倉医師と宮脇看護師が、名古屋
大学病院と関連病院の医師、看護師とともに、タイのマヒドン大学シリ
ラート病院でのがん早期発見・診断医療プログラムに参加しました。

医師は内視鏡検査の技術などを指導し、看護師は患者看護や
内視鏡関連器具の洗浄・取り扱い方法などについて指導を行いました。

受診のご案内

消化器内科医師予定表（2017年1月時点）

<table>
<thead>
<tr>
<th>月</th>
<th>火</th>
<th>水</th>
<th>木</th>
<th>金</th>
<th>土</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>椿原</td>
<td>野々倉</td>
<td>印第</td>
<td>野々倉</td>
<td>下郷</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>大北</td>
<td>水野</td>
<td>椿原</td>
<td>下郷</td>
<td>宜保</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>柳瀬</td>
<td>菊池</td>
<td>宜保</td>
<td>大北</td>
<td>南</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>金沢</td>
<td>交代制</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

予約方法
外来は完全予約制となっております。
お電話にて予約の上、お越し下さい。
※出張などで予定していた医師が不在の場合があります。

当院受診の予約受付 8:30～11:30
当日以降受診の予約受付＆変更 11:30～17:00
（土曜は14:00）

大阪どうクリニック予約センター
TEL 052-611-6265

○ だいどうクリニック
当日受診の予約受付 8:30～11:30
当日以降受診の予約受付＆変更 11:30～17:00
（土曜は14:00）

○ だいどうクリニック

愛知県名古屋市南区白水町9番地
TEL 052-611-6261（代表）
FAX 052-614-1036